

小報もがみ 4号

山崎 ゆう子さんは新庄出身なんです。

高橋 最上町に嫁いで30年間、職場のある新庄との往復で、なかなか腰を据えて最上町を知る機会がなくて。家族との最上での暮らしを大切にしたいなあと思って少し早めに退職しました。

山崎 昔は若妻会というのがあったと聞いたことがあります。今はそういったものは無くて、同世代と触れ合う機会もあまりないし、私も協力隊でなければ最上町のことを知る機会もなかったと思います。

高橋 若妻会には入っていたけど、何か提案すると、「それは昔からしてるからいいなんだ」と言われちゃう。ああ、ここでは意見してはいけないんだなって思ってしまった。だから今まではあまり関わってこなかったんです。

山崎 外からの視点って、現状を変えるチャンスだと思います。最近は何世代ごとに繋がりが分断されてきていますね。

高橋 20代の声が聞こえてこないですね。もっと聞きたいなあ。何して遊んでるんだらう？ 若い人たちが集まってくるような場所が欲しいな。あと、娘は東京行くのが好きなので、こっちに拠点を置きながら、東京に行ったり来たりできる仕事があったらいいなって思っています。

山崎 リモートワークが当たり前になりつつありますし、都会に住むメリットも無くなってる。たまに東京に行くくらいが丁度いいです。最新の文化に触れるのは楽しいし。逆に都会の人たちもこっちに来てもらって、自然や人や美味しいものに触れてもらいたいな。それに、外からの視点が入ること、また違った最上町の魅力が見えてくる気がします。コロナが収束した

ら、そんなことが出来る拠点を作りたいなあ。地元（宮城県白石市）にはあんまりいい思い出がなくて。

楽しかった記憶があれば帰りたいと思うかもしれないね。だから、最上町の子どもたちには、この土地で楽しい思い出をたくさん作って欲しいなあと思います。

高橋 今年はお祭りできないしねえ。お盆すぎると新庄まつりがあつて、町内でも4つのお祭りがあつて。息子が小さい頃は、向町・大堀・瀬見・富沢の祭りへ自転車で行ってました。

山崎 閉校やコロナを機に途絶えてしまわないかが心配ですね。



高橋 デンマークの暮らしの考え方にヒュッゲ（居心地のよい空間、楽しい時間などの意味）ってあって。最上町でもそんな風に暮らしを作っていきたいな。

山崎 ゆつたりした時間って大切ですね。忙しすぎると、考える余白がなくなつて、それでいいやうになつてしまう。すでに変なことがたくさん起きてるのに、考える時間さえも奪われる時代なので、自分の時間を大事にしたいです。

高橋 そうそう。それに、色んな意見を交換する場がないのかな。

山崎 本当は世代を超えたつながりがあったほうが、お互い学びになっていいですよ。

高橋 「若い人から教えてもらうことで自分をすごく豊かにできる」って愛読書に書いてあって、実践してみたいなって思っています。

山崎 自分を広げるために学ぶっていう価値観って大切ですね。私ももうすぐ40歳になりますが、全国的には20代の子たちの勢いがすごくて、自分も頑張らなきゃなって思います。学べるのがたくさんあると思う。

高橋 最上町が好きで、もっと元気にしたいって思う若い人が増えるといいですよ。若い人たちの「こんなことしてみたい」という妄想を集めて、考えが一致しているものがあつたらみんなで実行してみたり。

山崎 子どもたちに色んな体験させたい方だったり、何かにチャレンジしたい方、色んな方のアイデアを實現できる場を作りたいです。新しいものを作るというより、あるものを活かしてやってみたいですね。

高橋 瀬見の喜至楼さんの建物もいいですよ。あんな素敵な建物の中でお茶飲めたりしたらいいなあ。お

風呂もいいし。

山崎 重要文化財にすべき建物ですよ。赤倉の三之丞さんのお風呂もかっこいいんですよ。川の岩を掘って湧き出した温泉で。まるで泉の中に浸かっているような。

高橋 意外と町の旅館って入ったことないから行ってみたいですね。それと、街の人が「こんにちほ〜」ってコーヒー飲みに来て、あーだこーだ話しながら「今度こういうのいいね」「じゃあやろうか」となるような場所が欲しいですね。温泉の帰りに寄って、コーヒー飲んだり、いい本置いてないかな〜とか、そういう生活がしたいです！

山崎 私も本がある場所も作りたいて思っています！本の交換会したり、好きな本の紹介会とか開催してみたいし。知っている人が読んでいる本って気になります。あの人の考え方ってここから来てるのかな〜とか。世界が広がりますよね。他にこんな場所最上町にあつたらいいな〜と思うことがありますか？

高橋 このあいだ、赤倉温泉に夕方行つたら、ばあちゃんたちが4人くらいいて、女子高生のようにいたずらしあいつこしてて、楽しくて見ていたの。一生懸命拭いてるのに浴槽入っている人がバシャってお湯かけたりして。すごいいいなって。また同じ時間帯に入りに行きたいと思うくらいいい雰囲気だった。温泉っていいな〜って。

山崎 なんか想像できます（笑）。

高橋 こんなに気軽に温泉に行ける場所って他の地域と比べてもダントツだと思えます。いいお湯だし。ちよつと時間空いたら温泉行こう〜ってなる。その素敵な温泉を、一人だつたら入れないけど、お手伝いが

あれば入りたいていう人が気軽に入れるようになるいいなって。どこかの銭湯で「この日は介助の人がいます」と張り紙がしてあつて、その日に玄関まで来れば、ボランティアで来て若い介助の人が背中洗ってあげたり、着替え手伝ってあげたりして。それを利用してのお年寄りに何が一番楽しいかって聞いたら、「若い人と話するのが楽しかった」って。私話聞いたりするのも好きだから、入りたいけど一人で行けない人たちのお手伝いしてみたいです。ボランティア登録して、行つた時におばあちゃんたちと話して喜んでもらえたら嬉しいし、自分も最後に温泉入ってこれたらいいなあつて。



山崎 いいですね！ すぐ出来そうですし。やりましょう！

以前、小野川温泉で障害を持つ方も入れるよう工夫しているニュース見て、いいなと思っていました。そうやって設備を整えるのではなく、ゆう子さんのアイデアのように人の力で出来るのもいいですね。

高橋 自分も温泉好きだから年を取って入れなくなつたら、そういう仕組みがあるといいな〜って思つて。

山崎 イベントとかも今は全然出来ないけれど、感染対策して少しずつ始めたいなあと思つています。地域の人に名人を見つけて、先生になってもらつてワークショップ開いたり。暮らしを豊かにしたり、役立つことなどを学び合つていきたいなと思つています。保健師だったゆう子さんにも、産後に悩みを抱えているお母さんたちのためのイベントなどお願いしたいです！私も一人目だったので、産後はとても悩んだり追い詰められたりしたので。話を聞いてもらえるだけでも安心します。

高橋 やりたいやりたい。仕事離れてみて、自由でいいところもあるんだけど、やっぱり社会とつながりがなくなるって寂しいことだなあつて思つて。誰かに頼られると生き生きしてくるしね。

山崎 私は何も得意なことがないけど、最上町の素敵な人たちの魅力を伝えたり、組み合わせで新しいことを生み出したりしていきたいと思つています。

高橋 そういうコーディネイトする役割の人は必要だと思つています。保健師もおせっかいおばさんだから。その人自身の力を信じてあげるって大切なんです。

山崎 誰かの力を引き出す仕事って素敵ですね。私もそんな人になれたらいいなあ。

2020年8月26日発行

編集・最上町地域おこし協力隊 山崎香菜子

情報提供や山崎とお話したい方はご連絡ください

電話080-3256-1134

メール hayakawamiyagi@gmail.com

大堰に住む106歳ゆう子さんのお話し